

問 国の事業仕分けの影響は

答 大きな影響が懸念される



創政会代表
大上 正司

問 国の事業仕分け作業により、多くの事業が廃止・凍結・削減と言われているが、本市の予算編成や行政運営に大きく影響するのではないかと心配している。

宍粟市の新年度予算編成概要に、健全財政を維持しながら、住民の目線で、ゼロベースから事業の検証を行い、魅力あるまちづくりに向けて、施策が形として現れ、市民が実感出来る予算としたいとあるが、

基幹農道整備事業（トンネル）予定地

農道整備事業の廃止、耕作放棄地再生事業の見送り、農家の個別所得補償制度は米以外の作物などと言われる中で、一宮町で進められている「県産木材供給センター事業」や蔦沢地区から菅野地区を結ぶ「基幹農道整備事業」、安賀地区の「ほ場整備事業」等は予定通り実施できるのかお

聞かせ願いたい。私は、今回の災害を教訓に、耕作放棄田対策や山の手入れ等農林業施策に重点を置き、農林業の再生を図り、災害に強いまちづくりを展開する必要のあることを強く訴えたい。

新聞に、神姫バス株が、播磨には多様な特産品があり、やり方次第では「元気な農業が再生できる」と農業ビジネスに参入。又、あるJAが農業を利益の上がる産業とすべく「儲かる営農プラン」を提供し地域を元気にしたいと言っておられる記事が掲載されていたが、行政ももっと頑張っていたきたい。

市長

事業仕分けは少なからず影響があると思っ

ている。国、県に要望しながら、限られた財源の中で取組んでいきたい。又、県産木材供給センターの造成事業には、大きく影響しないが「基幹農道整備事業」や「ほ場整備事業」には大きく影響する。

問

8月の災害を振り返り、防災体制や各種支援策は充

分だったか。市独自の支援策の拡充や災害の漏れ落ち箇所対策、工事発注と入札方法はどのように。

市長

市独自の支援策など51の支援策で対応してきた。漏れ落ちの災害等は市単独事業で対応し、今年度内に8割程度発注したい。入札は最初は限定付きとするが、一定期間が過ぎれば全市の業者を対象に公募する。

問

宍粟市公共交通のあり方が検討されて久しい。何時まで検討するのか。烏ヶ岬トンネルも開通した。波賀町、千種町間を結ぶ路線の開通など、全市を網羅した計画を一日も早く策定し、実証運行の実施を。

市長

現在、公共交通会議や計画検討委員会で検討している。22年度中に実証運行を実施したい。